

# 知床半島および周辺地域におけるオコジョ *Mustela erminea* の記録

村上隆広

斜里町立知床博物館, 099-4113 北海道斜里郡斜里町本町 49-2

MURAKAMI Takahiro: Records of the ermine, *Mustela erminea*, in Shiretoko peninsula and the surrounding area

\*✉ darusmart@gmail.com

Information of the ermine, *Mustela erminea*, in Shiretoko peninsula and the surrounding area was collected. Although previous studies mentioned that the ermine inhabits highlands in Hokkaido, two observations of this study were recorded at altitudes under 25 meters. As the ermine is one of the nearly threaten species of the Japanese red list, it is a pressing need to collect more datas to confirm their distribution.

**Keywords** Ermine, *Mustela erminea*, Shiretoko, distribution, observation

## はじめに

オコジョ *Mustela erminea* は小型のイタチ科であり、日本では本州と北海道に分布している (米田 2008)。北海道では 1930 年代まで低平地にも分布していたが捕獲によって減少して、以来山岳地と周辺部に分布が限られているとされる (門崎 2009)。しかしながら、本種の生息情報はきわめて少なく、分布についてはさらに情報を集める必要がある。また環境省レッドデータリストでは準絶滅危惧種に指定されており (阿部・石井 2014)、本種の保全のためにも生息状況を早急に把握する必要がある。とくに、過去の分布調査では北海道の大雪山系や日高山系より東部の情報が少ない (環境省自然環境局生物多様性センター 2002)。そこで、知床と周辺部において確実にオコジョと思われる情報の集約を試みた。

## 調査方法

斜里町立知床博物館に 2000 年～ 2020 年に収容された哺乳類の記録からオコジョの情報を抽出した。また、斜里町および斜里町の近隣市町である網走市、美幌町、小清水町、清里町、大空町、羅臼町、標津町、中標津町、弟子屈町におけるオコジョ情報

を、既存文献の検索や博物館、自然施設、自然解説事業者に問い合わせた。このとき、目撃情報の場合は、識別点として「尾の先端が黒い」ことを確認していることを条件とした。写真、映像の場合も、尾の先端が黒いことを確認できた場合にオコジョと判定した。また、インターネットでオコジョであることが確実な写真や映像を検索し、情報発信者に撮影時期や場所を確認し、承諾を得られた場合は情報とした。

## 結果

斜里町、清里町、美幌町、羅臼町から 7 件の情報が得られ、死骸 1 件の提供を受けたほか目撃情報 3 件、画像 1 件、動画 1 件であった (表 1, 図 1)。標高は 5 m から 735 m と幅広く、また市街地でも目撃例があった。

## 考察

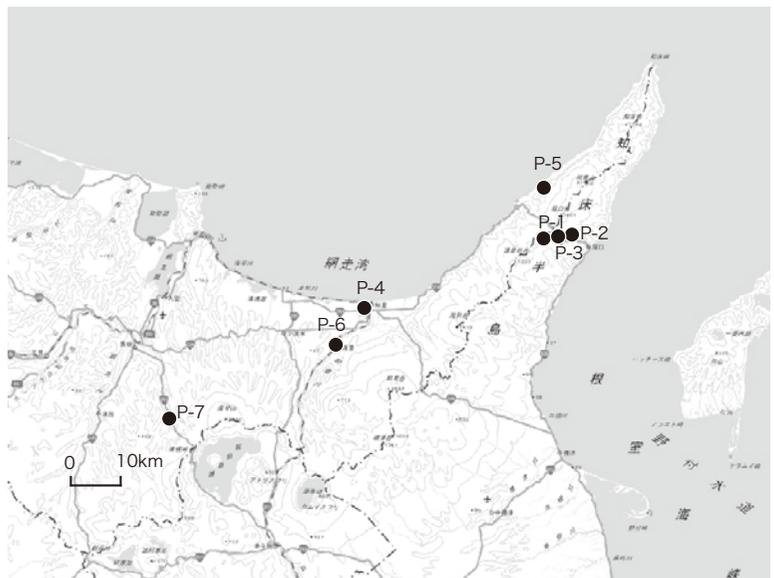
本研究により、事例数は少ないものの斜里町と周辺地域におけるオコジョの生息情報が得られた。まず、生息情報は特定の場所に限定されてはおらず、4 つの町で確認された。この結果が得られた理由として、次の 2 つの可能性が考えられる。一つは、今回

表1. オコジョの目撃, 写真, 映像情報.

番号	日付	場所	緯度経度	標高	
P-1	2000年9月13日	羅臼町羅臼湖	N44.0332, E145.0826	735 m	写真(図2)
P-2	2006年5月26日	羅臼町羅臼岳登山道	N44.04109, E145.1509	370 m	目撃、ヤチネズミ類を捕食
P-3	2020年6月12日	知床横断道路	N44.03733, E145.1176	570 m	死骸
P-4	2010年2月下旬	斜里町青葉町	N43.90398, E144.6550	5 m	目撃
P-5	2015年11月	斜里町岩宇別, 知床五湖	N44.1218, E145.0803	246 m	映像
P-6	2020年2月20日	清里町水元町	N43.8384, E144.5891	23 m	映像
P-7	2009年10月4日	美幌町古梅	N43.7004, E144.1952	120 m	目撃(小林2009)

表の番号は, それぞれ図1と対応する.

図1. オコジョの情報が得られた地点, 番号はそれぞれ表1と対応する.



の調査対象地域に広く分布しているオコジョ個体群のうち, たまたま現れた場所で個体の情報が得られた可能性である. もう一つの可能性は情報を得られた各地にオコジョの局所個体群が分断して存在している可能性である. しかしながら, 情報が少ないため本研究の結果からはそのどちらかはわからない. なお, オコジョは標高の高い地域だけでなく, 低地でも生息が確認された. 阿部・石井(2014)は, 北海道亜種は低平地の農耕地帯では見られず大雪山系などの山地に少数が生息するとしている. また, 門崎(2009)も北海道では1930年代までは低平地にも生息していたが捕獲で減少して, 以来山岳地とその周辺部に分布が限られると記述している. 本研究で

標高30 m未満の市街地で2例の情報があったことは, オコジョが北海道の低平地で現在生息している可能性を示唆している. しかしながら事例数が少なく, 偶然低平地で見られた可能性や, 一時的な減少によって低平地では見られなかった個体群が回復して目撃されるようになった可能性もある.

本種は環境省のレッドデータリストで準絶滅危惧種(NT)と指定されており, 北海道に生息する亜種は, 外来種であるニホンイタチ *Mustera itatsi* やアメリカミンク *Neovison vison* との競合が懸念されている(阿部・石井2014). 競合の有無を調べることは容易ではないが, まずオコジョの北海道内での分布状況を調べる必要がある. 近年は遺伝子解析技術

や自動撮影技術の進展により、野外で採集した糞や毛からのDNA解析、設置した赤外線センサー付きカメラの画像解析によっても分布調査は可能である。目撃の困難な種であり、これらの技術を用いた研究の進展が期待される。



図2. 羅臼湖で撮影されたオコジョ (浅沼孝夫撮影)

## 謝辞

本研究を実施するにあたり、浅沼孝夫様、桜井憲二様、中西将尚様、星野悠美様、川湯エコミュージ

アムセンター、公益財団法人知床財団、標津サーモン科学館、知床倶楽部、知床ネイチャーオフィス、瀧沸湖水鳥・湿地センター、民宿たんぼぼ、美幌博物館、ロッジ風景画の皆様にご協力をいただきました。心よりお礼申し上げます。

## 引用文献

- 阿部永・石井信夫. 2014. エゾオコジョ. 環境省(編), レッドデータブック2014日本の絶滅のおそれのある野生生物1 哺乳類. P84. 株式会社ぎょうせい, 東京.
- 門崎允昭. 2009. 野生動物調査痕跡学図鑑. 北海道出版企画センター, 札幌.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2002. 財団法人自然環境研究センター(編), 生物多様性調査動物分布調査(哺乳類)報告書.
- 小林道臣. 2009. エゾオコジョがフレム小舎を訪問. 美幌博物館ニュース164: pp.1-2, 美幌博物館.
- 米田政昭. 2008. オコジョ. 阿部永(監), 日本の哺乳類(改訂2版), p85. 東海大学出版会, 秦野.